

## 令和3年度第3回逗子市食育推進懇話会・逗子市食育推進計画担当者会議 概要

日 時 令和4年3月18日（金）15時00分から16時30分

場 所 逗子市役所5階 第2会議室

出席者

【メンバー】◎佐野喜子（アドバイザー）、鈴木洋子、堀川ノブエ、近藤千賀、森莊一、渡邊千夏（代理）、  
圓谷真理子、川畑明日香

【担当者会議委員】岡本梨沙、青山泰紀、西村知子、岡田真幸、鈴木禎子（代理）

【事務局】廣末参事、稲井係長、奥戸、伊藤

欠席者

【メンバー】若林順子、青木俊幸、大竹清司、森谷紀子、広田あや子、鷹本由貴子、吉川裕美、川名裕

【担当者会議委員】宮上淳久、高木かな、匂坂朋洋、菊池明美

傍聴者 なし

議事概要

### 1 開会

資料確認を行った。

### 2 議題

(1) 第2次逗子市食育推進計画における令和3年度重点目標の報告と令和4年度目標の設定・推進について

#### ア 取組み状況の報告

昨年度の会議で決定した令和3年度重点目標「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日1日2回以上喫食している市民の増加」について事務局で実施した取組みを報告した。

#### イ 事務局からの提案

次年度の重点目標について、第2次逗子市食育推進計画の「さらなる努力が必要な目標」の5項目のうち、「栄養成分表示を見て食材・食料品を購入する市民の増加」に設定したいと提案した。また、重点目標の推進にあたり、参加者からの意見を募りたいと提案し、意見交換を求めた。

#### ウ メンバー・委員からの意見

事務局の提案に対し、重点目標を「栄養成分表示を見て食材・食料品を購入する市民の増加」に設定することが承認された。また、メンバー・委員から次のとおり意見があった。

- ・重点目標の設定について、「まだ重点項目に設定していない」という理由以外に理由はあるか。
- ・栄養成分表示を見て食品・食料品を購入する人はそれほど多くないのではないか。
- ・原材料表示として、食物アレルギー予防のための特定原材料の表示は進んだと思うが、栄養成分表示としてのミネラル表示は必須ではない。自治体の認証制度があってもよい。
- ・表示されている栄養成分表示が、個人の必要量の何割かが分かるとより判断しやすい。
- ・周知啓発の仕方は年代によってパターンがあるので工夫が必要だと思う。
- ・現代におけるミネラル不足が疾病やアレルギー等にもつながっているように思うので、表示が進むよう、自治体から国へ提言してほしい。
- ・栄養成分表示をみて購入する機会は少ないのではないか。個人差があるように思う。
- ・栄養成分表示を見ても、何がよくて何が悪いかの判断がつかないため、そのような知識が得られる講座や勉強会等があるとよい。
- ・高血圧や糖尿病といった疾患になって初めて栄養成分表示に意識が向くのではないか。健康な人への啓発が課題だと思う。
- ・自分たちの食事を振り返りながら、充足している又は不足している栄養素量を考えられると、栄養成分表示をみるきっかけになるのではないか。
- ・栄養成分表示を見ながら食材や食料品を購入することはとてもよいと思う。
- ・ダイエットの低年齢化や、糖質制限の流行により、エネルギーだけなど、一部の情報のみを切り取って購入する危険性もあるのではないか。
- ・啓発の方法として、自分のベストの値をまず知って、栄養成分表示を見て購入することを合わせて啓発してほしい。
- ・市が開催する教室や、保育園等のコラム等で啓発できるとよい。
- ・資料にある「げんきのでるうた」が可愛い。幼児など、栄養成分表示の理解が難しい世代もいるので、啓発方法は変化をつけてもよいと思う。
- ・生鮮食品は栄養成分表示がないので、どのように考えればよいか。

## エ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

- ・食品の機能性の表示が可能な食品には、国が個別に許可する特定保健用食品、ビタミン(12種)やミネラル(5種)等を一定の基準量含む旨が表示できる栄養機能食品、摂取目安量を摂取した場合にどのくらいの機能性関与成分が摂取できるかがわかる食品等がある一方、スーパーに並ぶ生鮮食品には食品表示がないので、どのくらい食べればよいのかの知識は、私達消費者が身につけなければ

ばならない。

・先ほど中学生への啓発の報告があったが、できるところから、それぞれの世代にあった方法で情報を伝えることが大切と考える。

・新型コロナウイルスの重症化予防には、血糖値が高い、血圧が高いといった基礎疾患の有無による免疫力の低下が関連してくることが明らかとなった。基礎疾患の予防には、適正体重の維持、ひいてはエネルギーコントロールが重要であることが、このコロナ禍においてより強調されたように思う。

・「私」はどの栄養素をどの程度摂取すればいいのかといった情報が今一番不足していると思う。栄養成分表示を自身の健康づくりに活用するために、対象の年代やターゲットを整理して、市民が混乱しないよう啓発が進められることを願っている。

## (2) 第2次逗子市食育推進計画の改訂について

### ア 事務局からの提案

事務局より、以下のとおり説明及び提案を行った。

現在の第2次逗子市食育推進計画は、平成28年度から令和4年度の7年間を計画期間としており、令和4年度中に計画を改訂し、令和5年度に新しい計画となる予定である。新しい計画は、逗子市健康増進計画と統合し、「ずし健康食育プラン」とする方向であり、資料3が骨子案である。また、資料4-1～4-6の調査票を用いて実施するアンケートの集計・解析結果を、現計画の評価や新計画策定の基礎資料として活用したい。

そこでこれより、新しい計画において期待したい方向性や指標、内容について意見交換を行いたい。県の食育推進計画抜粋を配架したので参考にしてほしい。

### イ メンバー・委員からの意見

事務局の提案に対し、メンバー・委員から次のとおり意見があった。

- ・現計画にある「食文化を守り伝える」の視点は重要であり、今後に入れてほしい。
- ・市内にも食育に携わるボランティアがいるので、県の計画にあるようにボランティア数を指標に入れてもよい。
- ・食文化は大切な要素であるが、例えば伝統行事である豆まきや餅つきなどは誤飲や窒息の危険性があることから保育園等の行事で中止になる場合もある。危険性との兼ね合いが難しいとの意見が出た。
- ・市がこのように食育を推進していることを初めて知った。

- ・離乳食教室の回数を増やすなど、市の講座の中で小さい時から食を考える機会が増えるとよい。
- ・核家族では自分たちの考えに限定されるが、祖父母世代がいると食に対して知識の機会も増え、幅が広がる。食を通じた多世代の交流ができるとよい。
- ・県の計画を参考に「食育に携わるボランティアの数」や「食育に関心を持つ」の指標が入るとよい。
- ・食を選択する知識を身に付けてほしいので「主食主菜副菜を揃える」の指標が残るとよい。
- ・現計画の「主食主菜副菜を揃える」、「朝食を食べる」といった重要な指標は残した方がよい。
- ・米食の推進を掲げてほしい。
- ・地域の人々と食を通じた交流の場がほしい。子どもがいながら仕事をしていると、家庭で主食主菜副菜を揃えることはハードルが高い。そのような食事が食べられる市民食堂のような場があり、そこに祖父母世代の方もいて一緒に料理をしながら過ごせるとよいと思う。
- ・ビタミンやミネラルの重要性を伝えたい。
- ・指標のキーワードに「給食」があるとよい。給食は、子どもやその保護者の意識変容や、使用食材を通じた農業や環境問題等への啓発の材料として、可能性を秘めていると思う。

#### ウ アドバイザー講評

アドバイザーから次のとおり講評があった。

- ・目標値の達成のため、関連団体等の協力も得ながら市は食育を進めてきたが、計画が策定されて10年以上経ち、住民の受け取り方にも変遷がみられる。
- ・現代は情報が溢れているので、住民は情報に対して受け身の状態である。これからの食育は、住民の意識や行動が動くような仕掛けが必要だと思う。これは逗子市だけの課題ではないと感じるところである。啓発する文言や内容は変わらなくても、そのスタイルに工夫を施さないと、心に届かず、届いたとしても選択肢が多いので優先順位の低下が懸念される。
- ・このような会議の場を活用して参加者から忌憚なき助言をもらえると嬉しい。
- ・基礎となる重要な情報の発信は、基本的に進めていかななくてはいけないところ。逗子市なりのモデル、プランニングを作ればいいので、今回の参加者等が協力して進めていくと、広がりのある良い食育が推進されていくと思う。
- ・海や山が身近にある環境は逗子市ならではの魅力である。関連機関やその従事者のバックアップがあるこのような検討機関を上手に活用して進めて戴きたい。

### 3 その他

事務局より、事務連絡を行った。

### 4 閉会

以上